

令和3年度

認知症サポート医の活動等 に関する実態調査について

1

島根県健康福祉部 高齢者福祉課
地域包括ケア推進室



「しまねの地域包括ケア」ポータルサイト開設



QRコード
携帯電話で
ホームページに
アクセスできます。

島根県内の認知症サポート医（敬称略）

R3. 8月末現在 96名（養成数112名）
 （R2年度養成数4名）

隠岐の島町(2)

有田茂夫、加藤一朗<隠岐病院>

西ノ島町(1)

福田瑠子<隠岐島前病院>

海士町(2)

木田川利行、前田孝弘<海士診療所>

出雲市(16)

高橋幸男<エスポアール出雲クリニック>

深田倍行<深田医院>

土谷治久<佐田診療所>

安部哲史、長濱道治<島根大学医学部附属病院>

石橋和樹<島根県立中央病院>

白澤 明、濱田智津子<出雲総合医療センター>

山本大介<出雲特州会病院>

金森 隆<斐川生協病院>

山崎俊樹<あいあいクリニック>

河野公範<海星病院>

津村弘人<つむらファミリークリニック>

石川 厚<石川脳神経内科医院>

豊田元哉<とよだ内科頭痛クリニック>

高尾碧<こころの医療センター>

松江市(23)

櫻井照久、福田賢司、高村睦代

<こなんホスピタル>

細田眞司<こころの診療所細田クリニック>

松嶋永治<まつしま脳神経内科クリニック>

妹尾晴夫、柴田昌洋、百瀬 勇、宮岡剛

<松江青葉病院>

下山良二<松江医療センター>

吉岡太佑<吉岡医院>

杉谷美代子<いんべ杉谷内科小児科醫院>

内藤 篤<松江記念病院>

萬代恵治<松江刑務所>

松本和也<入澤クリニック>

中島健二、古和久典、深田育代

<松江医療センター>

野津立秋<野津医院>

泉 明夫<泉胃腸科医院>

伊達伸也<東部島根医療福祉センター>

坂之上史、田野俊平<鹿島病院>

安来市(11)

杉原徳郎<杉原クリニック>

野坂啓介<野坂医院>

片山征爾、竹下久由、ト藏浩和、鎌田佳

代子、江原真理子、

小村文明、角暁美、新宮左知子

<安来第一病院>

新田則之<介護老人保健施設昌寿苑>

益田市(8)

坪内健、藤木僚<松ヶ丘病院>

木谷光博<益田赤十字病院>

金島新一<金島胃腸科外科>

大森治樹<石見クリニック>

篠崎克也<さくらクリニック>

井上貴雄<あすかクリニック>

松本祐二<松本医院>

津和野町(1)

飯島献一<津和野共存病院>

吉賀町(2)

小笠原康二<小笠原医院>

谷浦博之<六日市病院>

浜田市(8)

中村慎一<中村医院>

田中新一<心療内科田中クリニック>

彌重博巳<彌重内科眼科医院>

沖田浩一<沖田内科医院>

松本貴久<西川病院>

北條宣政、井上幸哉
 <浜田医療センター>

笠田 守<笠田医院>

江津市(5)

中澤芳夫、関本 裕、堀江 裕
 <済生会江津総合病院>

山崎一成<山崎病院>

花田有二<花田医院>

大田市(4)

岡田和悟<大田シルバークリニック>

梅枝伸行<うめがえ内科クリニック>

安田英彰<石東病院>

山形真吾<大田総合医育成センター>

川本町(2)

加藤節司、山口拓也<加藤病院>

美郷町(1)

秦 恵明<秦クリニック>

邑南町(4)

河野圭一<河野医院>

高橋亮吏<星ヶ丘クリニック>

周藤由紀美<三笠記念クリニック>

中村和史<邑智病院>

雲南市(3)

今岡大輔<奥出雲コスモ病院>

笠 芳紀<雲南市立病院>

小黑浩明<平成記念病院>

奥出雲町(2)

山根冠児<永生クリニック>

遠藤健史<奥出雲町立病院>

飯南町(1)

松本賢治<飯南病院>

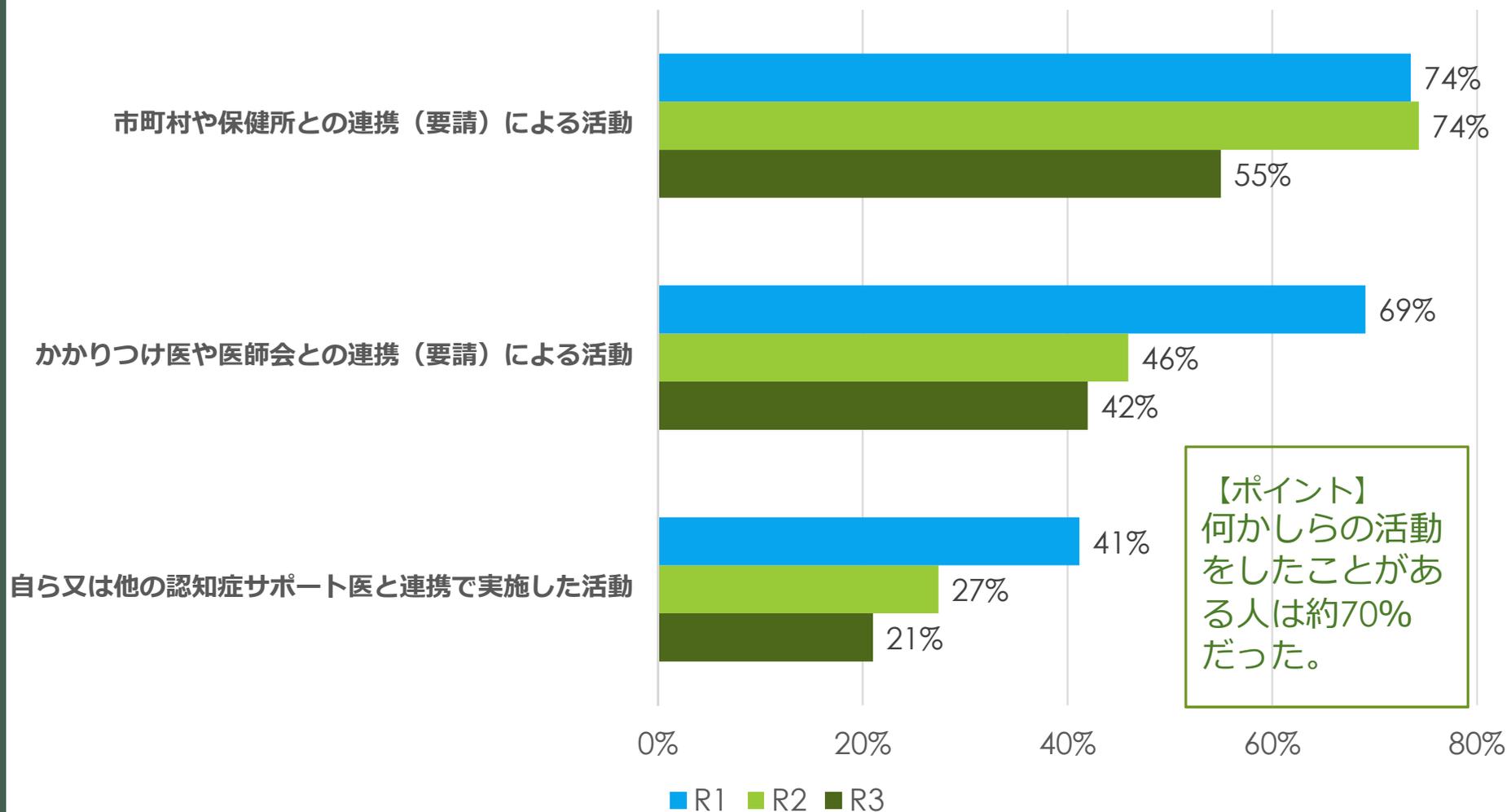
下線のある医師はR2年度新規養成
 （市町村名は所属医療機関所在地）

※認知症サポート医への相談や
 協力依頼など、本来の目的以外
 での名簿の使用はご遠慮くださ
 い。

1. 調査時期 令和3年6～8月
2. 調査方法 Web調査
(しまね電子申請サービス)
3. 対象者 96人(県内サポート医数)
(令和2年調査時96人)
4. 回答者 71人(回答率:72.4%)
(令和2年調査時71人(回答率:77%))

結果1 これまでの活動について

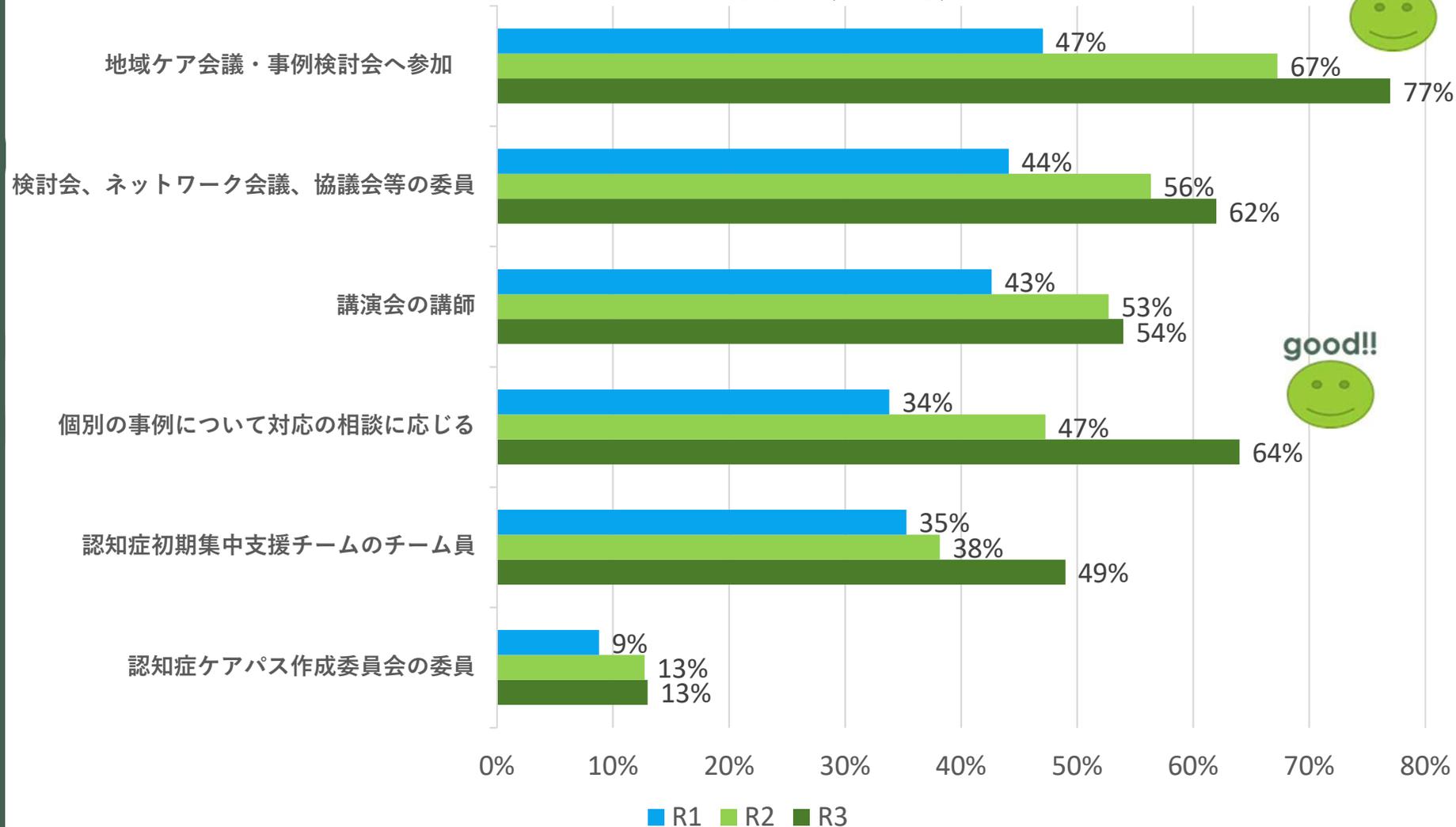
活動したことがある人の割合



結果1 これまでの活動について

市町村や保健所との連携（要請）による活動

good!!

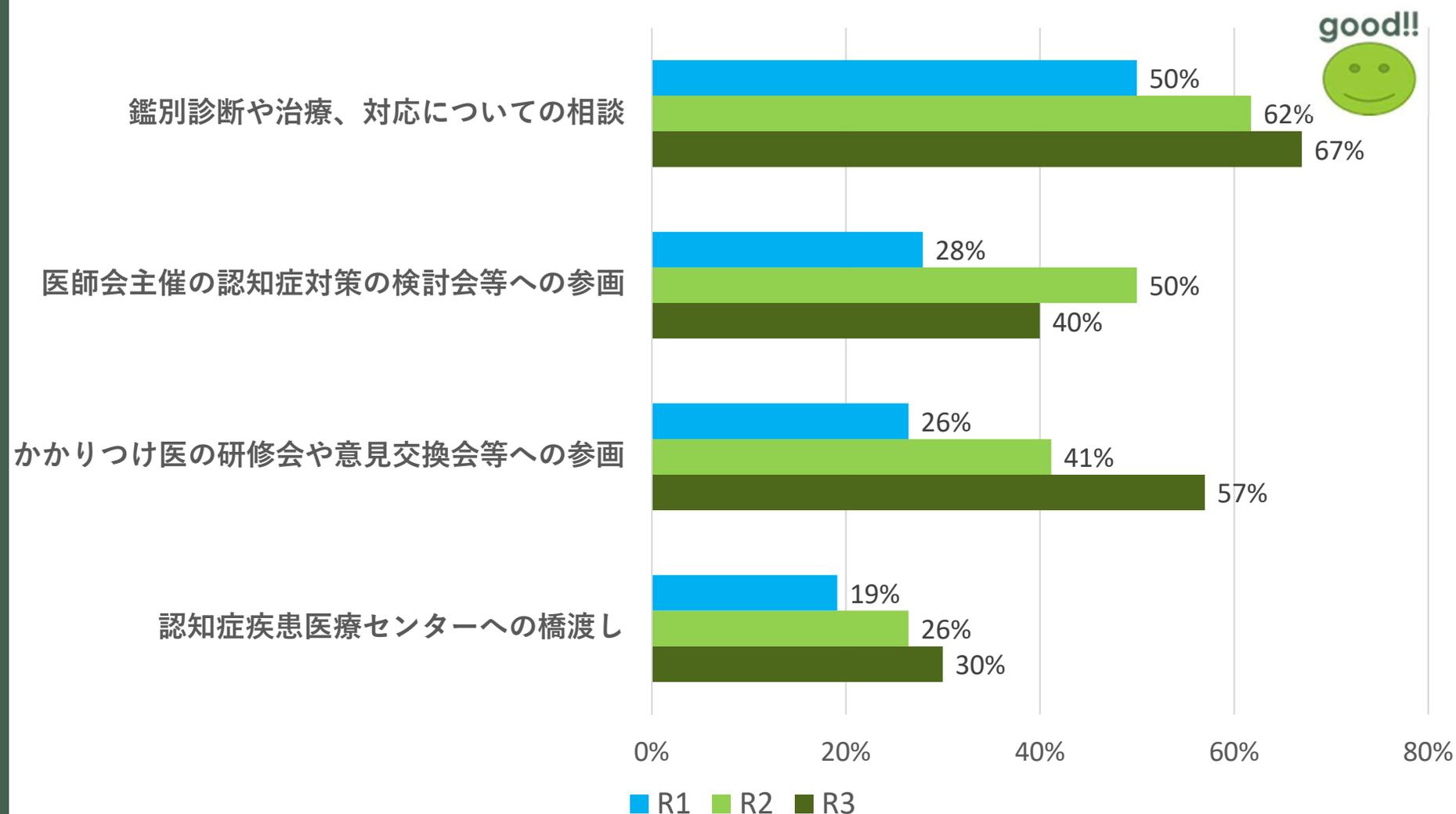


good!!



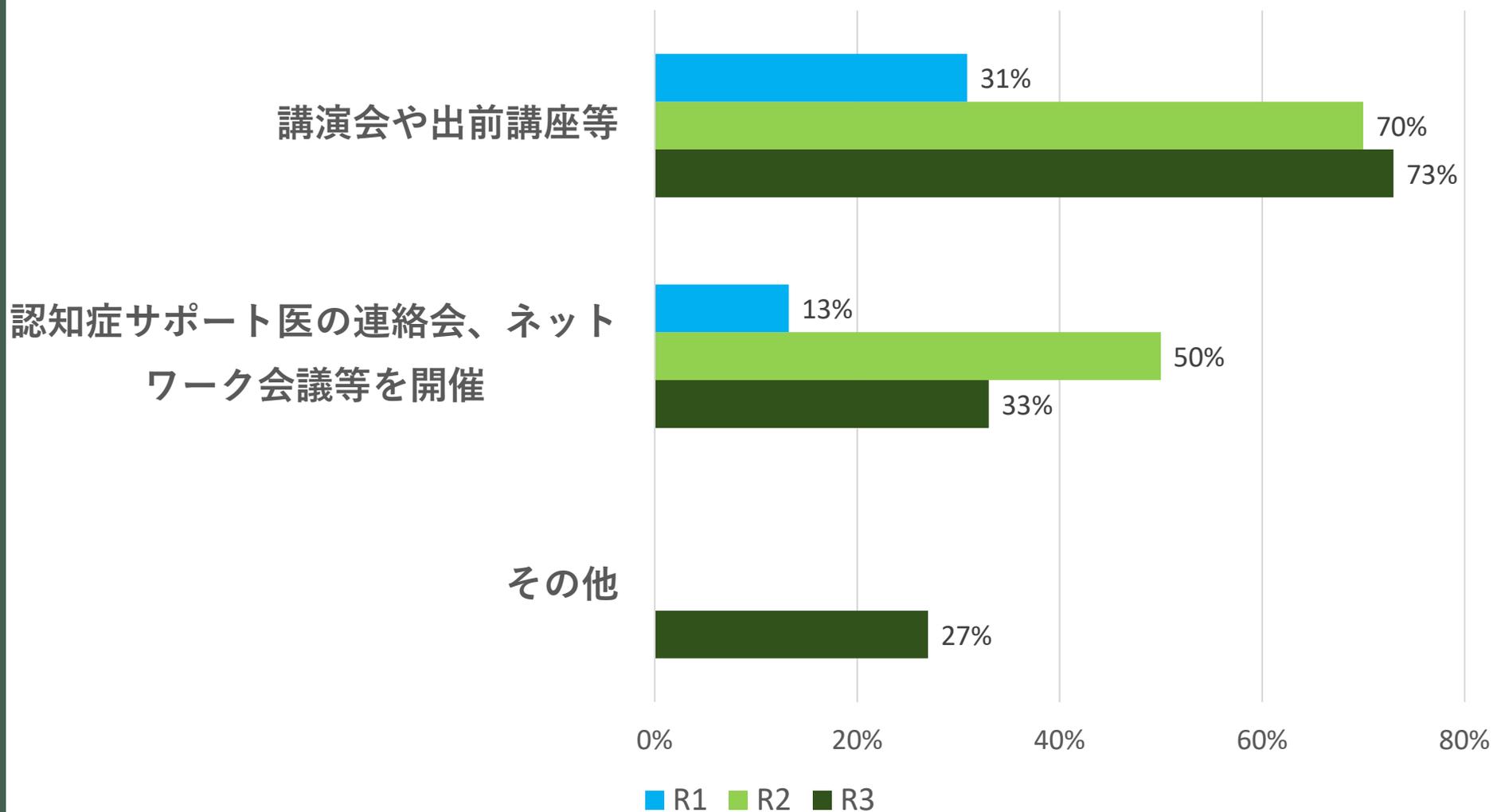
結果1 これまでの活動について

かかりつけ医や医師会との連携（要請）による活動



結果1 これまでの活動について

自ら又は他の認知症サポート医と連携で実施した活動



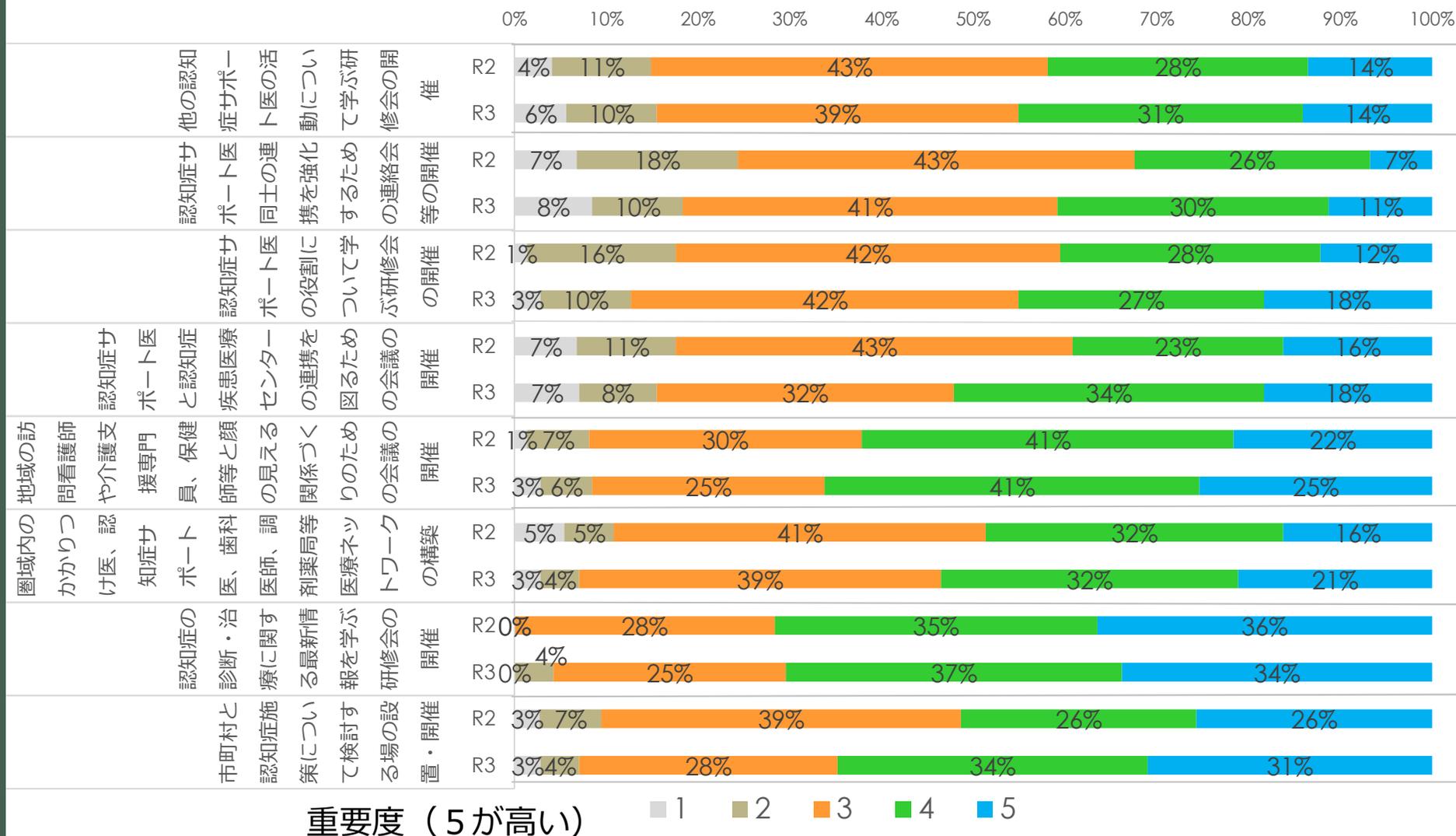
自ら又は他の認知症サポート医と連携で実施した活動

(その他)

- ▶ 受け持ちしている入院認知症患者の日々の診療とカンファレンス、退院前の在宅サービス部来院時のカンファレンス
- ▷ 診療
- ▶ 地域疫学研究の実施
- ▷ ケーブルテレビで30分間認知症予防について講演

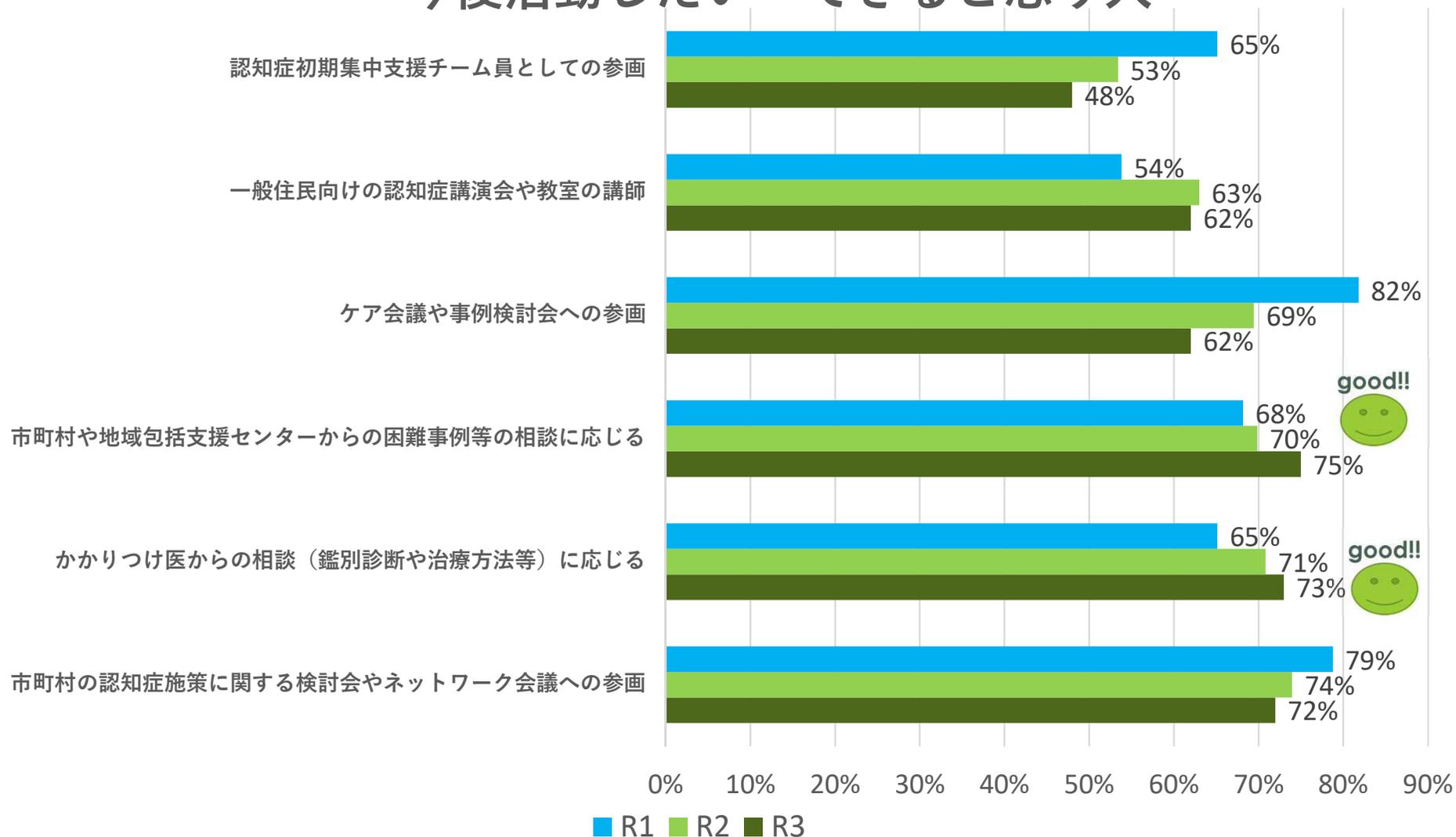
結果2 今後の活動について

今後活動する上で必要と思う事柄



結果2 今後の活動について

今後活動したい・できると思う人



活動が難しいと思う主な理由・・・

- 専門的な知識や経験が不足している。
 - 通常診療等が多忙で時間がとれない。
 - 本来業務以外の活動や参画へは所属の許可が必要。
-
- ▽ WEB開催であれば会議等へ参加しやすい。 good!!
 - ▽ 会議、ケース検討含め全ての協議の場においてオンライン等ICTの活用を積極的に進めてほしい。

- 早期認知症の発見と軽症～中等症の方ができる限り地域社会で生活できるように、公民館単位での住民への啓発、かかりつけ医への事例提示等が必要。
- コロナ禍により講演会等、知識を習得する機会が減っている。
- 活動できる環境整備が整っていないように感じる。資格取得後、活動できる場を提供してほしかった。
- 出雲市は幸い認知症に非常に詳しい先生方がいてそれらを中心によくまとまっている。現体制でサポート医である自分としても満足できる医療提供体制だと思っている。

- 約7割のサポート医のみなさんは何らかの活動をされている。
- 自ら又はかかりつけ医、医師会、他のサポート医等との連携（要請）による活動割合は前回調査より増加。
- これまでの活動で多いのは
 - ①事例検討会や会議への参加
 - ②鑑別診断や治療の相談
 - ③講演会や出前講座の講師 など

- 今後、重要と考えられているのは
 - ①市町村との検討の場
 - ②診断・治療の最新情報を学ぶ研修会
 - ③圏域内のかかりつけ医、サポート医、
歯科医師、薬局等医療ネットワークの構築
 - ④地域の訪問看護師、ケアマネ、
保健師等との関係づくりのための会議

- 今後、したい・できる活動は
 - ①市町村の検討会や会議への参加
 - ②かかりつけ医等からの相談対応
 - ③事例検討会等への参画

【ポイント】
昨年度調査と同様の結果となった。

- ①圏域・市町村ごとの連携体制の構築
⇒事例検討会、ネットワーク会議等の開催
(サポート医、市町村、保健所、
認知症疾患医療センターが中心に)
- ②地域の関係者（かかりつけ医、訪問看護師、
ケアマネ等）との関係づくり
⇒研修会の内容充実や日頃からの相談
- ③認知症の診断等に関するサポート医の資質向上
⇒県・圏域等でのフォローアップ研修会の開催